

令和2年度 事務事業総点検シート(1)
[令和元年度事務事業]

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	公害健康被害予防事業				シート番号	011-224
担当部署名	健康福祉	局	健康	部	保健所 保健医療	課 評価責任者(課長名)
						藤川

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	1	市民の命を守る健康・医療体制の強化	無
	2	事業開始年度	平成 1 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	公害健康被害の補償等に関する法律			
	4	関連計画				
5	事業実施の経緯	昭和63年の「公害健康被害の補償等に関する法律」の施行により、国内の公害地域が全面解除されるとともに新規の患者認定は行わないこととなり、代わって、広く一般の市民を対象に、肺疾患の予防や健康の回復を目的とした事業を実施することとなったもの。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()					
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	呼吸器疾患相談：15歳以上の市民 ぜん息児水泳教室：気管支ぜん息に罹患している3歳以上の未就学児、小学生 ぜん息児健康回復キャンプ：気管支ぜん息に罹患している小・中学生					
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	<ul style="list-style-type: none"> ●呼吸器疾患相談 参加者の慢性閉塞性肺疾患に関する理解を深めるとともに、療養にかかる知識を習得していただくことにより、参加者の健康の回復、増進につなげる。 ●ぜん息児水泳教室及びぜん息児健康回復キャンプ 参加した児童とその家族に、ぜん息に対する正しい知識を習得していただくとともに、「ぜん息を患っていても水泳やキャンプに参加できた」という自信を持つことにより、今後の児童の積極的な活動へのきっかけにさせていただく。 					
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	<ul style="list-style-type: none"> ●呼吸器疾患相談 医師による呼吸器についての講義、個別相談、理学療法士によるリハビリ指導などにより、呼吸器疾患に関する理解を深めるとともに、療養にかかる知識を習得することにより、疾患の予防、健康の回復を図る。 ●ぜん息児水泳教室 水泳により呼吸器を鍛えるとともに腹式呼吸法を習得させることにより、ぜん息児の健康回復、保持増進を図る。 ●ぜん息児健康回復キャンプ 空気清浄な環境にかかる合宿を通じ、日常生活の療養指導やぜん息体操などを行うことにより、ぜん息児の健康回復、保持増進を図る。 					
10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 () マックススポーツ株式会社、公益財団法人大阪YMCA						

Ⅲ. 投入量

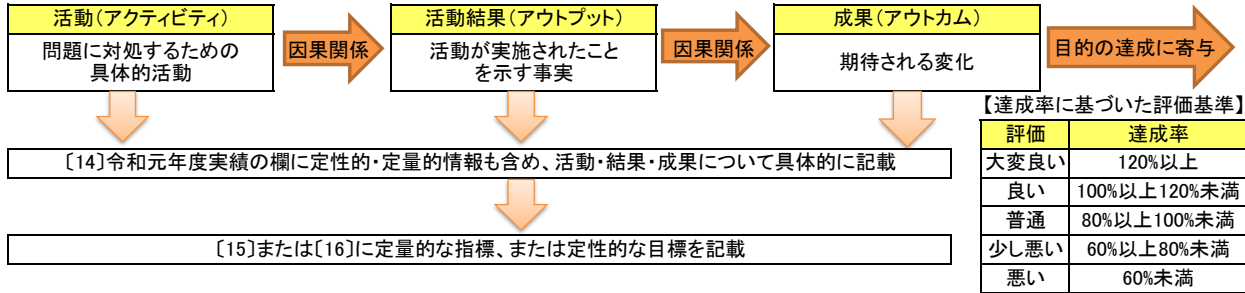
項目	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	
11 事業費 (a)	千円	24,302	4,651	24,438	3,266	3,933	2,210	3,246	
主な事業費内訳	医師出務報酬	千円	364	336	364	308	252	196	252
	委託料	千円	2,304	2,108	2,315	2,226	2,153	1,532	1,600
	医療機器整備助成補助金	千円	20,000	1,235	20,000	0	0	0	0
		千円							
財源内訳	国・府支出金	千円							
	受益者負担金(使用料、手数料等)	千円							
	市債	千円							
	その他(負担金等)	千円	23,747	4,651	23,754	2,980	3,249	2,210	2,865
一般財源	千円	555	0	684	286	684	0	381	
12 人件費 (b)	千円	4,100	4,100	4,100	4,100	4,050	4,050	4,100	
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	28,402	8,751	28,538	7,366	7,983	6,260	7,346	

令和2年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	公害健康被害予防事業	シート番号	011-224
-------	------------	-------	---------

Ⅳ. 評価(測定・分析)》

ロジックモデルの考え方



[14] 令和元年度実績の欄に定性的・定量的情報も含め、活動・結果・成果について具体的に記載

[15] または [16] に定量的な指標、または定性的な目標を記載

事業の活動実績や成果

令和元年度実績							
活動実績と成果	14	<ul style="list-style-type: none"> ●呼吸器疾患相談: 医師による講話、理学療法士による指導、個別の健康相談等を行った。実施月: 6月、7月、2月の計3回実施。(10月、3月は中止)。参加人数20人。 ●ぜん息児水泳教室: 療養上有効な水泳訓練を行い、保護者からの、子どものぜん息についての相談に応じた。9月に4回実施。参加人数 35人。事後に実施するアンケート結果では、約97%の参加者が満足しており、参加児童自身の健康に対する自信の向上に寄与した。 ●ぜん息児健康回復キャンプ: 自然環境の整った日高少年自然の家で2泊3日の合宿生活を送った。参加人数 22人。事後に実施するアンケート結果では、約95%の参加者が満足しており、参加児童自身の健康に対する自信の向上に寄与した。 					
	15	指標名【成果指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		「ぜん息児水泳教室」実施後のぜん息のコントロール状況	目標値	100	100	100	100
			実績値	69	67	73	
			達成率	69%	67%	73%	
	評価		少し悪い	少し悪い	少し悪い		
	算出方法・設定根拠など		保護者アンケート結果: ぜん息のコントロール状況=「完全コントロール」、「コントロール良好」の割合				
	16	指標名【成果指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		「ぜん息児健康回復キャンプ」実施後のぜん息のコントロール状況	目標値	100	100	100	100
			実績値	54	63	100	
			達成率	54%	63%	100%	
	評価		少し悪い	少し悪い	良い		
	算出方法・設定根拠など		保護者アンケート結果: ぜん息のコントロール状況=「完全コントロール」、「コントロール良好」の割合				

事業の効率性

区分		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
17	①	ぜん息児水泳教室参加者数	人	58	40	32
	②	上記①にかかる年間経費	千円	389	370	156
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	6,707	9,250	4,875
備考(算出についての説明等)		平成30年度までは年2クール(8回)開催。令和元年度は年1クール(4回)の開催。				
区分		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
18	①	ぜんそく児健康回復キャンプ参加者数	人	19	20	23
	②	上記①にかかる年間経費	千円	1,719	1,856	1,377
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	90,474	92,800	59,870
備考(算出についての説明等)		平成30年度までは3泊4日、徳島県阿南市で実施。令和元年は2泊3日、和歌山県日高市で開催。				

業績の分析

目標を達成できた、または達成できなかった要因や効率性についての分析(その他、関連情報に基づいた分析)	
19	<p>令和元年度はぜん息児水泳教室の開催日や開催時間に柔軟性を持たせ、より幅広い方が参加しやすいものとなるよう改善した。また、ぜん息児健康回復キャンプについては、実施場所をこれまでの徳島県阿南市から和歌山県日高町に、日程を3泊4日から2泊3日へと変更し、より多くの方が参加しやすい行程に改善した。これらの結果、両事業とも、例年以上に満足度の高いアンケート結果が得られた。</p>

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありましたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありましたか。
- 有効性は高いですか。低いですか。
- 効率性は向上していますか。
- RPA等をはじめとするICTを活用する余地はありましたか。
- ターゲットに応じた最適媒体の選定など、戦略的な広報ができていましたか。

令和2年度 事務事業総点検シート(3)

事務事業名	公害健康被害予防事業	シート番号	011-224
-------	------------	-------	---------

《V. 点検》

＜点検の前提＞

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、本市の財政運営は今後一層厳しくなる
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止と社会経済活動の両立をめざす

○上記「点検の前提」を踏まえ、事業の抜本的な見直しを検討するもの。

⇒

<input checked="" type="checkbox"/>	確認
-------------------------------------	----

コロナ禍を踏まえた点検（必要性・有効性・効率性）	20	本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を廃止できないか。	事業廃止の可能性 <input type="checkbox"/> 廃止できる <input checked="" type="checkbox"/> 廃止できない	廃止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 当事業は、法に基づき大気汚染による健康被害の予防を図るための総合的な環境保健施策の一環として実施している事業であり、廃止により市民の健康管理の機会を失うことにつながる。
	21	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を休止(延期)できないか。	事業休止の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 休止(延期)できる <input type="checkbox"/> 休止(延期)できない	休止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 健康管理の機会を一時的に失う恐れはあるものの、新型コロナウイルスの感染リスクを比較考慮し、休止が妥当と考える。
	22	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、事業規模を縮小するなど、コスト縮減を図ることができないか。	コストの縮減 <input type="checkbox"/> 一部廃止しコスト縮減できる <input checked="" type="checkbox"/> 一部休止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 規模等を縮小しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 事業手法等を改善しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 縮減できない	縮減できる場合は具体的な縮減内容、できない場合はその理由 当該事業の対象者は呼吸器に不安を持つ方や小児ぜん息を持つ子どもが対象であり、基礎疾患により、コロナウイルスに感染すると重症化しやすいリスクを持っているため、現在のコロナウイルス感染症拡大の状況下で実施することは難しい。よって、今年度は全面的に事業を休止する。
	23	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 社会経済活動の維持・回復のほか、3密を避けるなどの市民や民間の活動変容への対応に向け、実施手法を改善する必要がないか。	事業手法の適切性 <input checked="" type="checkbox"/> 改善する必要がある <input type="checkbox"/> 改善する必要がない <input type="checkbox"/> 既に対応できている	改善する場合は改善策、その他は理由 コロナウイルス感染症に対する予防策の確立状況を把握しつつ、感染による健康被害を出さない実施方法について検討する。
	24	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 効果的・効率的な事業の実施に向け、右に掲げる視点から改善できないか。	効果的・効率的な事業実施(以下の観点で、改善する(または改善済)場合は■、改善しない(改善余地がない場合を含む)場合は□) ① <input type="checkbox"/> 公民連携の推進 ② <input type="checkbox"/> ICT活用による効率化 ③ <input type="checkbox"/> 他部局との適切な連携・役割分担 関係部署名 () 関連事業名 () ④ <input type="checkbox"/> 国・府等との適切な役割分担・連携 ⑤ <input checked="" type="checkbox"/> 他政令市等との比較におけるサービス水準の均衡 ⑥ <input type="checkbox"/> その他()	理由・説明 他政令市等では既に大幅に事業規模を縮減している自治体もあり、今後他市における実施内容も精査したうえで、事業の在り方や方向性について検討する。
25	これまでの点検を踏まえ、今後の事業のあり方についてどのように考えるか。	事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止または延期 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を縮小 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 現状を継続 <input type="checkbox"/> 事業を拡充 公金投入の方向性 <input type="checkbox"/> ゼロ <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡大	実施年度 <input type="checkbox"/> 令和2年度 <input checked="" type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降	
		所見 当該事業の対象者は呼吸器に不安を持つ方や小児ぜん息を持つ子どもを対象としている。現在のコロナウイルス感染症拡大の状況下でぜん息児水泳教室やぜん息児健康回復キャンプを実施することは難しいため、令和3年度からは、これらに代わるより効果的な事業を実施する。		